SHIN FUJITA
EXHIBITION
SPRING



Shin fujita

藤田新展

泉—古代からの伏流水

会期 | 2026年11月25日（水）→ 30日（月）
会場 | 日本橋髙島屋S.C. 本館6階美術画廊

ごあいさつ

この度、日本橋髙島屋では 藤田新展　泉－古代からの伏流水 を開催させていただきます。
先生は1953年東京生まれ。1979年に東京藝術大学大学院彫刻科を修了されました。
平面と立体の境界を越えた作品を継続的に発表されています。
今展では富士山と羽衣を描いた「HAGOROMO」シリーズ。
鏡を組み込んだ「HANA」シリーズ。
そして新作となる「MAGATAMA」のシリーズを中心に展観いたします。
この機会に是非ご高覧賜りますようお願い申しあげます。

髙島屋美術部

略歴

1953年　東京に生まれる
1977年　東京藝術大学彫刻学科卒業
1979年　同大学院彫刻科修了
1982年　絵画制作を始める
1983年　グループ展　銀座渋谷画廊（～'89）
1990年　個展　みゆき画廊（'92）
1991年　個展　村松画廊
1993年　個展　一番星画廊（'94）
1994年　兄弟展　山形松坂屋（兄　ガラス工芸家・藤田潤と共に）
1995年　個展　日本橋三越本店（'10 '11 '13 '17 '19 '21）
1996年　兄弟展　福山そごう
1997年　個展　髙島屋横浜店（'99 '01 '03 '05 '07 '09 '11）
1998年　兄弟展　東京　参宮橋スペースR
1999年　個展　髙島屋大阪店（'04 '07 '10 '16 '18 '20 '21 '24）
　　兄弟展　松島　藤田喬平ガラス美術館
2000年　個展　髙島屋日本橋店（'02 '04 '06 '23）
2005年　個展　米子髙島屋（'07 '14）　岐阜髙島屋（'08）
2006年　個展　岡山髙島屋（'08 '10 '12 '14）
2007年　個展　ジェイアール名古屋タカシマヤ（'14 '16 '19 '22）
2010年　個展　髙島屋新宿店
2011年　個展　髙島屋京都店
2012年　「讃　喬平　藤田潤・藤田新 collaboration」
　　髙島屋大阪店　ジェイアール名古屋タカシマヤ
2019年　個展　福岡岩田屋三越
2020年　個展　一畑百貨店松江店
2023年　個展　長崎浜屋
2024年　個展　松坂屋静岡店
2026年　個展　髙島屋日本橋店

現　在　　無所属
http://www.shinfujita.jp

Takashimaya NIHOMBASHI S.C.



1. HANA
58.0×78.0cm



2. HAGOROMO
45.0×45.0cm



3. MAGATAMA
30.0×30.0cm

見ること　そのものを思います
私は2000年頃から　青空に小さな光の粒が動く「ブルーフィールド内視現象」(註) に気づきました
そして　それを見る時　不思議な自由さを感じました
見ることは　見えたものに名前をつけ　意味を与え　一つの世界に編集します
内視現象が見える時　編集が解けて　心が広がるようで　その形を HAGOROMO と MAGATAMA として　その自由の感覚を重ねました

日本には古代から現代まで異なる時代のものが重なりながら残っていますが　その多義性を許容する状態の象徴として　HANA シリーズに　外の世界を映すと同時に　見る人自身を映し返す　鏡を入れました
羽衣　勾玉　鏡　それは日本の古代からのものです　古代の人々の視覚体験を想像すると　今も同じ流れの中にいることを感じます

現在の生成 AI は　大量の情報から言葉や文脈のパターンを学習し　その関係をもとに応答を生成しているそうで　まるで「空気を読む」という行為にも似て見えます
「空気」を　共有された文脈が圧縮されたものと捉えるなら　日本に見られる多義的で明文化されない秩序は　遅れた前近代ではなく　異なるものの対立を避け　共存させるための一つの方法だったのではないかと思われます
私達が見続けたものは　時代の下を流れる伏流水のようで　作品はその泉に見えます

ご高覧くださいますようご案内申しあげます

藤田 新

(註) ブルーフィールド内視現象
小さな明るい光点（青空の妖精と呼ばれる）が視野の中を急速に動きまわる現象のこと。特に青空のような明るい青い光を見たときに見える。動く点の正体は目の網膜の前にある毛細血管の中を走る白血球である。青い光（波長470nm）は毛細血管内の赤血球に良く吸収される。そのため赤血球は黒い影として見えるはずだが、脳や目はこの黒い影を編集により除去している。白血球は赤血球よりずっと数が少なくかつ青い光を吸収しない。そのため白血球が毛細血管を通過した際は相対的に明るい光点として認識される。（Wikipedia から一部抜粋）